

## 多摩地域の登録検案医の確保について

## 課題

- ・登録検案医の高齢化に加え、新たな登録検案医の確保が困難な状況にある。
- ・今後さらに多くの検案医不在地域が発生する可能性が考えられる。
- ・区部の大学は、多摩地域の検案には関わっておらず、今後、連携等の可能性について検討する必要がある。

※東京都における持続可能な死因究明体制の推進より抜粋

## (1) 登録検案医の稼働状況（大学の法医を除く。）

（令和7年4月1日現在、（ ）内は令和6年4月1日現在）

	人数	（内訳）		
		65歳以上	65歳未満 50歳以上	50歳未満
合計	40(40)	14(14)	21(20)	5(6)
R6稼働登録検案医	18(19)	6(6)	10(12)	2(1)
R6非稼働登録検案医	22(21)	8(8)	10(8)	4(5)

※稼働の有無は令和6年度実績

## (2) 登録検案医不在地域の状況

（令和8年1月1日現在）

	不在地域	対応
1	調布市	周辺の地区医師会の検案医及び大学法医により検案
2	西東京市	大学法医により検案
3	日野市	大学法医により検案

## 令和7年度の対応

## 1. 登録検案医確保事業による研修の充実

ア 研修の開催場所について、今年度も東京都医師会館で実施。

イ 研修の実施方式としては、各関係機関に講義を依頼し集合研修を行うことにより、新たな登録検案医の確保や、登録検案医の検案精度の確保を図った。